

水痘ワクチンの効果

2015.06.18

2014年10月から子ども達が待ち望んでいた水痘ワクチンの2回接種が始まりました。

水痘（みずぼうそう）は、皆さんよくご承知の通り、体に水ぶくれがたくさんできて、あとでかさぶたができる病気です。多くのお子さんでは水疱からかさぶたまでで終わってしましますが、時には水痘脳炎を発症したり、あるいは重症化して死亡に至ったり（統計上は毎年10人程度死亡しています）する実はとっても怖い病気です。お年を召されてから発症する帯状疱疹もウイルスは一緒です。帯状疱疹は幼い時に水痘になったことが原因としてもたらされていると考えられています。帯状疱疹による強い痛みが、ワクチン二回で将来なくなるとしたら、こんな朗報はありません。

水痘ワクチンの定期化はこの短期間の間に函館の地にもすでに効果を表しています。昨年度、当院で麻疹風疹ワクチン1回目を受けたお子さんの90%以上が水痘ワクチン1回目を接種しています。その結果今年1月から6月までの水痘の流行は過去5年間の平均の1/4までに減少しています。流行が減少するのはとてもいいことなのですが、流行が減ればワクチンで免疫を作った子どもたちが、水痘ウイルスに知らない間に少しだけ触れて免疫が強化されることがなくなります。結果として麻疹や風疹のようにワクチンを2回接種しなければ、子ども達を水痘という病気から守れないということになります。

現在の水痘ワクチンの無償化は1歳から3歳の誕生日の前日までに3か月以上の期間をあけて2回接種するというものです。1回目は多くの方が受けていただけていると思いますが、2回目を忘れないでください。3歳以上のお子さんで水痘ワクチンを1回受けたけど、水痘にかかってもいないし、周りではやった記憶がない場合には有料になりますが、2回目の接種を受けましょう。

ワクチンで守れる病気はワクチンで予防する。病気にかかるほど怖いものはない。こんな共通の認識が、皆さんの間に広まることを小児科医は望んでいます。